

平成27年度第2回日本4H会長会議議事録

【日時】 平成27年11月17日14:00～17:00

18日 9:00～11:30

【場所】 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟102研修室他

【会議次第】

1. 開会のことば
2. 綱領唱和
3. 会長あいさつ
4. 議長選出
5. 議長就任あいさつ
6. 議事録署名人任命
7. 書記任命
8. 議事
 - (1) 報告事項
 - ・平成27年度全国農業青年交換大会について(資料1)
 - ・平成28年度全国農業青年交換大会について(資料2)
 - ・第55回全国青年農業者会議概要について(資料3-1-1～3-2-2)
 - ・F.A.Pについて(資料4-1-1～4-2-2)
 - ・2015年度カナダ青年交流事業及び国際交流事業について(資料5-1、5-2)
 - (2) 検討事項
 - ・農業者会議のDVD取扱い(販売・配布)について(資料6-1～6-3)
 - ・各都道府県連活動紹介について(資料8)
 - (3) その他
 - ・優秀クラブ表彰について(資料7)
9. 議長解任
10. 閉会

【会議出席者】

定数	出席者	委任	計	欠席
27	25	2	27	0

【出席者名簿】

北海道：久末 彰真
青森県：長峰 良孝
茨城県：関 沙雪
栃木県：吉原 太一郎
埼玉県：齊藤 克
千葉県：実川 恵子
長野県：小澤 浩太
新潟県：小林 竜典
富山県：松田 晋弥
石川県：宮野 義隆

福井県：川村 鉄兵
愛知県：柴田 耕平
滋賀県：湯ノ口 絢也
京都府：桂 幸光
大阪府：木下 健司
兵庫県：都倉 貴博
奈良県：乾 忠記
島根県：西尾 和廣
岡山県：豊福 祥旗
福岡県：野上 泰史
佐賀県：中島 大貴
長崎県：尾上 雄也
熊本県：宮崎 修太
大分県：平山 祥幹
鹿児島県：中尾 盛和

全国農業青年クラブ連絡協議会役員

鈴木 啓之、会津 宏樹、岩瀬 和也、森安 晃司
他 11 役員

【議事概要】

資格審査

総会等議事運営細則第6条に基づき、鈴木全協会長から資格審査員に、大分県：平山祥幹、富山県：松田晋弥、鹿児島県：中尾盛和を選任した。
資格審査員により、出席者25名、委任2名、欠席者0名で本会規約第4章29条により過半数を満たすので本会議は成立する旨報告した。

平成27年度日本4H会長会議開会

綱領唱和 代表 青森県：長峰良孝

鈴木会長あいさつ

鈴木

みなさまお疲れ様です。はるばるありがとうございます。

昨年度から全国農業者会議の実施細目の改定で一年間かけて会議の中で話を進めてきまして大分ゴールが見えてきたと思います。今日は前回の会議でDVD作成が決まりましたので今回の会議では利用方法についてを話したいのですが、今年度の全協のスローガン日本一丸ということで、各道府県のクラブの自信のある取り組みや悩みに関する事前アンケート

トをいただきました。今回の会議では、アンケートを元にみなさんの悩んでいる事や是非広めたい取り組みに関しても話して行こうと思います。

議長選出、議事録署名人任命、書記任命

鈴木全協会長から議長選出の方法について諮り、会長一任の発言を受けて、議長に石川県：宮野義隆、愛知県：柴田耕平を選任した。

議長就任あいさつ後、議事録署名人に島根県：西尾和廣、北海道：久末彰真を任命。また、書記に九州理事：福富貴裕、中四国理事：三浦正之をそれぞれ指名し、承認された。

第一号議案 報告事項

・平成27年度全国農業青年交換大会について

青森県：長峰良孝

資料1を参照の基、説明 略

平成27年度全国農業青年交換大会と第46回東北農村青年会議秋田大会と併催交流会において参加者全員で「栄光の架橋」を熱唱したのが良かった反響があった。

東北ブロックにおいては全協に加盟しているのが青森県のみ。今回、秋田県で交換大会を開催でき、全国のクラブ員と東北のクラブ員が一堂に会して交流できたことが非常に良かった。これが全協加盟へのきっかけになるといい。

《質疑応答》なし

・平成28年度全国農業青年交換大会について

長野県：小澤浩太

大会実行委員長の山本裕之さんが翌日の会長会議に直接来て説明することを提案し、了承を受ける。

・第55回全国青年農業者会議概要について

執行部：会津副会長

資料3-1-1、3-1-2を参照の基、説明。

日本4Hが誕生して60周年を迎えるため、記念式典を併せて開催する。

「交流の夕べ」を記念パーティーに変えて開催。

《質疑応答》なし

執行部：会津副会長

資料3-2-1、3-2-2を参照の基、説明。

農業者会議のブロックヘルプの旅費の捻出に関して

《質疑応答》

大分 平山

農業者会議でのブロックヘルプの役割は？

執行部 会津

受付での荷物預かり、誘導、アンケート回収、プロジェクト発表のビデオ撮影など難しくない作業を手伝ってもら。初日の仕事内容が多い。希望するプロジェクトが見られない可能性があるので、調整を行いたい。

岡山 豊福

ブロックヘルプの選出方法は？運営を手伝える会長はブロックヘルプに含まれるのか？またブロックヘルプの旅費の金額に関しては？

執行部 鈴木

自発的に運営を手伝っていただけると助かる。

今までのブロックヘルプは、次年度にブロック理事を受ける方に経験をしてもらう意味でブロックヘルプとして手伝ってもらっていた。

総会や会長会議等で、ブロックヘルプじゃなくても手伝える人が手伝うと意見を参考に、会長・副会長などが運営を手伝ってもらえたら、ブロックヘルプの費用捻出の話はなくなる。

岡山 豊福

会長が自発的に手伝うのであればブロックヘルプになる。一般の会員もなりえる。サポートとして費用もらわないという曖昧な解釈でいいか？

執行部 鈴木

運営を手伝う人が多い方が助かるし、会としても活気が出てくる。

ただ運営側に入ることによって何らかの犠牲が生じてしまうため、対応として懇親会費用の減額などを提案したい。しかし予算の限界もあるため、人数の制約も出てくる可能性がある。

議長 柴田

ブロックヘルプの選任の仕方の回答を願います。

執行部 会津

各ブロックからの選出方法を参考にさせて頂きたい。

北海道 久末

その時期に行ける人優先で選任する。

青森 長峰

東北ブロックでは全教加盟が青森県のみ。全協役員に青森県の人が多いので、その方からの依頼が多い。

2年前にブロックヘルプを経験したが、できれば会長等の経験者の方が運営上、楽できるのではないかと。もしくは会長が運営を手伝うのがいい方法ではないかと。また、全協を経験してほしい人材を会長と一緒に手伝ってもらおうと、後継者育成にも繋がるのではないかと。

茨城 関

関東ブロックでは次年度のブロック理事予定者を選出している。

新潟 小林

北陸ブロックも次年度のブロック理事予定者を選出している。

愛知 柴田

東海ブロックは現役員からの口利きで選出している。

大阪 木下

近畿ブロックはルールを設けていない。ブロック理事がヘルプを見つける。

大阪府としてはブロックヘルプの予算が決まっていれば、次につながる人材を見つけた方がいいのではないかと思う。

島根 西尾

中四ブロックはブロック理事がつてを辿って依頼している。

2年前にブロックヘルプをした時は県連副会長で、会長からの依頼だった。

旅費はあるにこしたことはないが、気持ちはみんなで盛り上げて作り上げたい。

農者会 2 日目に会長会議があるので、会長ばかりも頼れないので、そこも考慮した選出がいいと思う。

熊本 宮崎

九州ブロックも次年度ブロック理事予定者を選出している。また、県連会長を経験した人材を選ぶようにしている。

新規でブロックヘルプに入った場合は、県連会長のサポートも必要になってくると思う。ただ全国の会長も協力して役割分担すれば、農者会運営の負担も減らせるのではないか。

執行部 会津

全国の会長みんなが農者会の運営を手伝ってもらえるならば、ブロックヘルプ自体がいらなくなるのではないか。

ブロックヘルプ旅費予算計上案(大会運営費 500 円/1 人増)の採決を取りたい。ブロックヘルプ予算を計上しなければ、会長の皆さんに運営協力を願いたい。

議長 柴田

採決 賛成 19 票 賛成多数によりブロックヘルプ予算は計上する。

資料 3-2-2 の採用(大会運営費 500 円/1 人増)

執行部 会津

農者会の予算書を作成する。また会長にはブロックヘルプのサポートをお願いする。

岡山 豊福

ブロックヘルプの一人当たりの予算は？

事務局 森安

8 ブロック×3 万円の 24 万円を計上。ただ関東圏は旅費が少なく、遠方は旅費がかさむ。全協役員の旅費を参考にして、平均約 3 万円と言う金額を提示した。

鹿児島 中尾

鹿児島県の場合、始発の飛行機でオリンピックセンターに向かっても 12 時前にしか到着できない。可能であれば、その時間を考慮した仕事の割り振りをお願いしたい。

執行部 会津

全国の会長の到着時間に配慮したい。

議長 宮野

執行部で仕事の項目や時間を整理して、会長連には報告してほしい。

・F.A.Pについて(資料 4-1-1)

執行部:岩瀬副会長

資料 4-1-1、4-1-2 を参照の基、説明

執行部で「ぐるなび」との意見交換を行い、連携の提案を行った。

「ぐるなび」が検討をすとの回答であったため、「ぐるなび」と表記した企業が変わる可能性がある。

執行部:鈴木会長

<補足説明> (なぜ企業に「ぐるなび」を選んだのかを説明。)

「ぐるなび」は飲食店の検索サイトを運営しているが、その他に「ぐるなびPRO」と掲げて(一生産者が月額 5 万円で農産物を飲食店に対してのチラシ等を作成し、)生産者と飲食店を繋ぐ事業もしている。

《質疑応答》

青森 長峰

どういったものを集めたいのか？一般流通しているものを集めても仕方ないのではないかな？企画の意図が分からなかったので説明をお願いしたい。

執行部 鈴木

数を集めるのではなく、誰にも負けないという自慢の農産物を集めたい。そのため応募数も少なくしてある。

福井 川村

応募対象に全協非加盟県も含めた理由は？

執行部 岩瀬

初めての取り組みではあるが、全協の取り組みを全協非加盟県に対してもPRするため、全協へ加盟・非加盟の縛りを外した。

執行部 鈴木

まだ案の段階なので、企画を練り上げるような意見を頂きたい。

大阪 木下

応募対象者が全国の農業青年なので、ものすごい数の応募がある可能性がある。各ブロックで限定した応募数に絞るなどの対策も考えておいた方がいいのではないかな。

執行部 鈴木

みんなこだわって生産していると思うので、応募数がかかなり多くなることも想定される。ただブロック

で絞るとなるとブロックの負担も増えるので、慎重に考えたい。他の意見も伺いたい。

長野 小澤

新しい取り組みなので応援したい。

長野県連と「ぐるなび」の過去の取り組み事例を報告させて頂きたい。

2、3年前に「ぐるなび」がマッチングサービスを始めた頃で、飲食店の方に長野県に来てもらい、こだわった生産者を紹介する農家ツアーを企画した。実際に契約が成立した実績はあるが、「ぐるなび」の営業に終始した感じがあった。お互いにフェアなフィードバックがある企画であるべきだと感じた。

今回のF.A.Pの企画のイメージが掴めてないが、交流という意味も含めて クロストークなどの気さくなトークセッションがあってもいいのでは。

執行部 鈴木

今回もビジネスライクの感じがしている。「ぐるなび」から企画の返答の情報を流すので、再度意見を頂きたい。

北海道 久末

おもしろい企画でありそう。

北海道の事例の報告。全道の農畜産物を帯広市に集め、プロのシェフに調理してもらい、参加者で食べて交流する企画を実践した。盛況だと感じた。

今回、せっかく全国の農畜産物を集める企画なので、参加者にふるまえる場を検討してみては？

執行部 岩瀬

農者会での企画なので、可能であれば懇親会でふるまえたらと思っている。

岡山 豊福

個人的な話ではあるが、実際に「ぐるなび PRO」に登録している。

「ぐるなび」がビジネスライクな面があるのであれば大変だとは思う。今回の企画が継続性のあるものなのか分からないが、お互いに良い関係作りができれば面白いと思う。全協のイメージアップや認知度を広げる取り組みに努めて頂きたい。

「ぐるなび」と全協がお互い win win の関係であれば、無料での取り組みも可能ではないだろうか。

執行部 鈴木

日本に50万店舗の飲食店がある。「ぐるなび」はその内14万店舗以上があり、飲食店販売を考えている人には魅力的なパートナーではないかと思う。

「ぐるなび PRO」に興味がある人は、ブロック理事も含め全協役員が話を聞いているので、是非問い合わせてほしい。

茨城 関

参加費用はかからないのか？

執行部 岩瀬

参加費用の負担は考えていない。農畜産物の送料は負担してもらおう形になる。その他の費用もかからないようにしたい。

・F.A.Pについて(資料 4-2-2)

執行部:岩瀬副会長

資料 4-2-1、4-2-2 を参照の基、説明

《質疑応答》

北海道 久末

女性の参加募集者で関東圏に絞る理由は？意欲的な方なら全国からでも大丈夫ではないか？

執行部 岩瀬

交通面から考えて関東圏内からの募集とした。男性企画の農コンではあったが、これまでの経験や実績を基に判断している。もし、女性の参加希望者が少ない場合は、距離を広げて募集する。

執行部 鈴木

農コンでも婚活パーティーでも、距離が近い方が成功率の高い実績がある。

実際に全協でこの企画を取り組み、レポートをまとめる。各ブロックで興味があるところは、情報を提供するので、地方版「農 girls の婿探し」をやってほしい。またそれが全国に波及してほしいと思っている。

・2015 年度カナダ青年交流事業及び国際交流事業について(資料 5-1、5-2)

執行部:岩瀬副会長

資料 5-2 を参照の基、説明

1.【カナダとの交換プログラム】

参加者:熊本県 坂本壮一朗さん

資料 5-1 を参照の基、説明

《質疑応答》

福岡 野上

成果の「日本でできそうなこと」とは？

熊本 坂本

農場での結婚式や宿泊施設を設けてみたい。地域を盛り上げるイベントができるのではないかと感じた。

長崎 尾上

カナダでの印象に残っていることは？

熊本 坂本

ハグを経験した。言葉では言い表せないことも、ハグをすることによって伝わる。日本でも広めたい。

福井 川村

4H のホームステイだと感じたことはあったか？

熊本 坂本

受け入れしてくれたモニカ以外の4Hクラブ員に会っていない。特に感じたことはない。

佐賀 中島

この交流事業に手を挙げた理由は？

熊本 坂本

好奇心です。交換交流の時期が農閑期でもあったので、それも後押しになった。

埼玉 斉藤

会話能力は？カナダでの会話方法は？

熊本 坂本

中学生レベルの英会話能力。カナダでは受け入れてくれたモニカを通訳として入ってもらった。日本では、英会話ができる人に協力をもらった。

2.【台湾への派遣】

3.【第5回インターナショナル4Hユースウィンターキャンプ&4Hリーダーシップワークショップ】

執行部：岩瀬副会長

資料5-2を参照の基、説明

《質疑応答》なし

第二号議案 検討事項

・農業者会議のDVD取扱いについて

執行部：会津副会長

資料6-1、6-2、6-3を参照の基、説明

《質疑応答》

岡山 豊福

借りるにあたって、どこまでの単位から借りれるのか。たとえば、中四国ブロックレベルなのか、または県なのか。また、中四国で借りて、県との重複は可能なのか。

執行部 会津

渡すことは、無しでお願いします。

最低規模は、市町村のブロック、クラブです。

岡山 豊福

たとえば、単協で借りるのと、県協で同時に並行して借りることは可能でしょうか。同じ県内で、違う組織で。

執行部 会津

一応、枚数は準備する予定ですので、重複しなければ可能です。なるべく少ない量で頼んでいただければ、こちらも助かります。

岡山 豊福

たとえば、岡山県連で借りたものを、各単協に渡すということはできると。岡山県内であれば見ることはできるということでしょうか。

執行部 会津

そこまでは、私たちは関与しないといいますか、モラルの範囲内で。

鹿児島 中尾

全国4Hに加盟していない県は？

執行部 会津

基本的には、加盟県のみの貸し出しと考えています。

執行部 鈴木

ただ、もしブロック会議で教材として使いたいということになると、もちろんここには非加盟だけどブロックには加盟しているというところもあると思いますので、そのあたりはブロック内で決めていただいて、『加盟はしてないけども、ブロックの仲間みんなで見ようよ』ということになれば、そういう使い方をしてもらう分には問題ないと思います。

福井 河村

DVD化されるのは、今までの発表も含まれますか。それとも次の発表からですか。

執行部 会津

過去のものに関しては、DVD化はおこないません。これからのものになります。

熊本 宮崎

以前、九州ブロックの九州大会でDVDを作ったことがあるのですが、その時はプロジェクト発表部門・意見発表部門と、いくつかに分けて作ったのですが、そういうふうになるのか。あるいは、一枚にまとめるのか。
また、何セットぐらい用意されるのか。

執行部 会津

大臣賞のみのDVD化になりますので、1枚になります。
用意する数に関しては、これから検討してゆきたいと思います。

議長 柴田

採決 全会一致により、DVDはレンタルサービスの方向で進める。

事務局 森安

本会議で規約は可決されましたが、実際のDVD化が動き出すのは、第57回の大会からということになります。

第三号議案 その他

・優秀農業青年クラブ表彰について

執行部：鈴木会長

資料7を参照の基、説明

平成25年度・26年度優秀農業青年クラブ表彰で、最優秀賞を受賞したクラブの感想が書いてあります。総会、第一回会長会議の時から、優秀クラブ表彰の応募数が大臣賞の規定に満たない数になっていますので、ぜひ募集をお願いしますということで声をおかけし続けているのですが、ここ最近応募件数が減っているのが事実です。こうなってくると、農林水産省の規定に満たないとなってくると、必然的に優秀農業青年クラブ表彰で大臣賞は狙えなくなってきました。

優秀農業青年クラブ表彰は基本的には県連会長および県知事の推薦で挙げてもらっているものなのですが、優秀農業青年クラブ表彰は基本的には県の担当者の方や普及員の方が資料を作って提出をしてくださっています。なので、実際にその資料を作るところに（クラブ員が）あまり立ち会ったり作ったりというのをしていないのではないかと思うんですけど、この賞というのが、皆にとってあまり必要じゃない表彰事業になっていないのではないかというのが、私たちからの問いかけです。

プロジェクト発表は、私も各ブロックの審査に行のですが、もう白熱していますね。やっぱりみんな、『やった、決勝だ!!』『次は東京だ!!』とやっているんですけども、その中で優秀クラブ表彰に関しては、熱が無いものになっているのではないかと思います。ずっと歴史を持って続けてきたものなのですが、今、世の中にとって、4Hクラブにとって、農業青年にとって、この表彰事業が必要でないのならば、農林水産省などに話を通して、この表彰事業をやめようという問いかけなんですけども、今、この現段階で優秀クラブ表彰を無くそうとしている状態に関して、何か意見があればお聞かせください。

《質疑応答》

青森 長峰

青森県では12月から書類選考が始まる場所ですが、私個人としては、4Hクラブとは各地区連があってこそだと思います。地区連の活動があってその道府県連、ブロック、全国があると思うので、地区を表彰するという必要かと。

私が所属している地区連がありますが、優秀クラブ表彰を受賞しているクラブがどういう活動をしていて、どういう構成員で、どういう想いを持っているのかというのは、これから地区連をどうしていこうかと考えるときには必要かなと感じています。

農林水産大臣賞が条件的に厳しいのであれば、農林水産大臣賞は無くしてもいいと思いますが、優秀クラブ表彰そのものは無くさないほうがいいのか。プロジェクト発表は個人だったり共同だったりするかもしれないですけど、各地区連を表彰して優秀なクラブを全国で紹介する場というのが必要なのかなと考えています。

執行部 鈴木

今の意見は嬉しい意見で、その地区でのいい活動を広めるというのは今年のテーマともしていることなので、ありがたいことなんですけれども、いまのとおり大臣賞というものをやめて、たとえば表彰事業って女性の活躍推進だったり食育だったり、農林水産大臣賞を本気で狙おうと思ったら、狙える表彰事業というのが昔と違って結構多岐にわたっていると思います。農林水産省も、『こういう表彰があります』というのを必死で情報提供して

いるのですけども、それがまだ届いていないというのも事実かもしれない。4Hクラブ、全協でもこういう表彰事業の告知をお願いしますというのを農林水産省から頼まれることもあります。

じゃあ、本気で農林水産大臣賞が欲しい人は、そういうチャンスが広がってきている状態であるならば、優秀クラブ表彰というもので大臣賞をとるということは、ご意見があったように、やめたうえで、これはあくまで一つの案なんですけども、スパッと長年続いてきたものを無くしてしまうっていうことはちょっとさみしいなというところがあるので、以前、長野県会長から少し前の会議で話があったように、名前なども変えてしまって、ここからは本当に例の話なんですけども、『4Hグランプリ』みたいな形にして、各県の面白い取り組みを挙げてきてもらって、それをある程度書類選考をし、先行で勝ち残ったクラブは、見えないところでの審査ではなくて、農業者会議のあの場所でプロジェクト発表の始まる前に3組程度出してもらって、時間の中であればプロジェクト発表等とは違って、着ぐるみもOKで、音も流して良い、どんなこともあり、エンターテインメント性を求めた発表でもいいということで、今年4Hクラブで一番面白い取り組みをグランプリ形式にするとすることも案として考えています。その賞に関しては、おそらく大臣賞を出すということは難しいと思いますけども、たとえば全協から表彰したりだとか、今続けているようにいろんなスポンサーに声をかけて副賞を出して頂いたりだとか、形は変えてでも残していきたいという案も、我々も持っています。

大阪 木下

今の鈴木会長の案は、私としてもすごく良いと思いますけど、単純に、私知らないのを教えていただきたいんですけども、この優秀クラブ、もし農林水産大臣賞をいったんやめるということになって、今の鈴木会長の案などで、また優秀クラブの活動が活発化してきたときに、また農林水産大臣賞に再登録というか、そういうのは簡単にできるものなのでしょいか。

執行部 鈴木

難しいですね。一度やめてしまうと、難しいのはむしろかしいんですよ。大臣賞という冠が残ったままにしておくということになると、今の表彰事業のまま内容を変えていくというかたちしかないんですけども、それをやるためには発表点数などが必要になってきたりですとか、もしくは最終の審査のときにどんなことをしていいかということ農林水産省と確認した上で、『あれはだめです、これはだめです』ということになってくるので、本当に難しいところなんですけども、一回やめてしまったら、この表彰が盛り上がってきたからやっぱりこれで大臣賞をもらおうとなったときには、断られてしまうと思います。

大阪 木下

大阪としては、優秀クラブ表彰にまだまだ注目が集まっていない状態です。今まではプロジェクト発表も意見発表もそこまで力を入れてこれなかったという状況で、ここ2、3年で意見発表も力を入れるようになってきて、プロジェクト発表もできるようになって、という形になってきたんで、もしこれがそのまま残せる状況にあるならば、さらにその3つ目のクラブ単位でのいろいろな活動というのでできればいいなと思ったので、私としては残してもらえたらいいかなというのが個人的な意見です。

執行部 鈴木

私たちとしても残したいという気持ちはあるんですけども、そうすると最初に話したように発表点数が必要なので、それこそ来年度必ず、加盟県は少なくとも全部の道府県が

必ず出すということをルールとして決めなければいけないくらいに、出展数が減少しています。あとは皆さんがそれができるかどうか。実は普及課の方とか、県の担当者の方たちも、何十ページという資料を作ってきてくれています。それをしてもらって、それが20点とか出てくるんですよ。また更にそれを全協の事務局を持っていただいている大日本農会のほうで全部資料に目を通し、概要表も作成し、資料をプリントアウトしてファイリングして、審査員にお願いして声掛けをして、もちろん私も審査員の一人に入っているんですけども、審査員に事前にこの資料を読んでもらったうえで書類選考のみの審査になるので、しっかり全部目を通して審査しないといけない、ペーパーも出さないといけないということで、かなり負担がかかっているということも正直なところで、でも、大臣賞として残す、全員が提出するとなるとたぶん膨大な資料となる状態になる。そうすると、今は大日本農会にお願いしていますが、外注に出して行うというような作業になってしまう可能性ということもあって悩んでいます（注：大日本農会から、作業は審査資料をすべて読んだ上で各々の概要をごく短く整理しつつ審査の整理表を作成しており、外注できる内容ではないとのコメントあり。）。私たちとしても、大臣賞が取れる表彰事業というのは、数が減るのはさみしいことなんですけども、今、優秀クラブ表彰についてお聞きしますと言ったときに、『何のことだろう』というふうになるというのは、もしかしたら皆の中で必要ではないものになってきているということの表れなのかということも感じたんですけども、他の方も、ぜひ意見を聞かせてください。

佐賀 中島

プロジェクト発表に地域部門というのがあると思うんですけど、それが単協の地域活動の発表の場と思っている方も結構いらっしゃると思うんですよ。そこに全力を注いでるところもたくさんあると思います。実際うちのクラブは、それが自分たちの地域活動として代表を立てて発表しています。なので、ちょっと被るところがあると思います。たとえば一案なんですけども、(優秀クラブ表彰は) すっぱりやめたとして、農業者会議の地域活動部門という範囲が広いと思うので、それをたとえば4H活動部門と名を変えるとかすると、競いやすいのと、その農林水産大臣賞がクラブのものという、受賞したという感じもしやすいのかなと思います。

執行部 鈴木

確かに、わかりやすくなりますね。今、地域活動部門と優秀クラブ表彰の違いって何なんだろうということもあると思うので、今のご意見のように優秀な4Hクラブの活動というのは地域活動部門で大事賞を狙っていくということが、そのほうがクラブ員も気持ちが入りやすかったり、ちゃんと大臣賞を狙っていくんだという可能性が強くなると思います。

滋賀 湯ノ口

滋賀県でも、今年優秀クラブ表彰に出ようかというところがあるんですけども、大臣賞を目的として発表するのもあると思うんですけども、第一は個々の経営改善や地域の改善。やはりみんなで情報共有しあうというのも一つだと思うので、無くなるのはさみしいなと思うんですけども、1年で活動して1年で発表というのは実際難しいのかなと思いますし、『無くなるから発表しよう』というのなかなか難しいと思います。2~3年積み重ねて活動してきたことを3~4年で発表して、素晴らしい発表ができるのかなと思っているんですけども、そういうかたちで発表を見ながら、各県・地域が良いところを盗んで、真似したら、地域も活性化するんじゃないかなと思うので、無くなるのはさみしいかなと思います。あと、先ほどもプロジェクトのところで地域部門に入れたらということもありましたし、それも案なのかなと思います。滋賀県は今までなかなか優秀クラブ表彰で発表させていただ

いたこともないのですが、今まで音声付きであったり着ぐるみを着てだったり、楽しくされている所があるのでしたら、プロジェクトの枠にはめてしまうと、ルールがあるからできないので、そのあたりも考えていただければいいのかなと、みんなのためになることができるのではないかと思います。

執行部 鈴木

2～3年間かけた取り組みを発表できる場がなくなってしまうのはさみしいことだと思うので、地域活動部門を優秀クラブ表彰のようなイメージで応募してもらえると、そんなに何か大きく変わってしまったという印象は無いかもしれないのかなと思います。優秀クラブ表彰を一度ステージバトル方式で盛り上げてみたらどうだろうという意見をくれた長野県の会長に意見をお聞きできればと思います。

長野 小澤

当県の事情ですけれども、『続けたい』というこの場の皆さんの総意ですとか、執行部の皆さんの努力ですとか、といったものに応えたいという県連の気持ちもありますので、毎年毎年県に持ち帰って地域のクラブに問い合わせさせていただくような形で何とかやっているというのが現状です。おそらくこの後の議題にあるアンケートの話って、実はそこにあるんじゃないかって思ってますけれども、地域や地元に戻った時って、ここにいらっしゃる皆さん、同じ状況だと思います。県連が盛り上がってるところもあれば、そうじゃないところもある、けど、一番ベースにあるローカルというか、地元というか、そういう集まりって活動はしてないかもしれませんが、私の場合、たまに2か月に一回くらい先輩が『集まりがあるから』と飲みに誘ってくれたりとか、私はそれも立派な4Hのつながりだと思っています。

それぞれの事情とか活動の頻度や規模というのもありますが、ただ、そこで大事なのはちゃんとそこでつながってそれぞれが自分たちらしく4Hのマインドで動いていくこと、それを続けていくことかなと思ってるんですよ。私も会長職をやらせていただきながら、『大臣賞、大臣賞』という想いを、続けたいという想いを汲んでましたけども、どうしても現状にそぐわない、それを維持するための活動になってしまう、そこに本当に意味があるのかなというのが前回の提言でした。形はどうであれ、いろんなスタイルはあると思いますが、せっかくだったら『うちは面白いことやってるんだよね』っていう人たちが全国から集まる場で、面白い形でプレゼンする。かつちりした発表の中で、そういう一コマがあってもいいのではというのが提案でした。

執行部 鈴木

頑張っているクラブの活動が知れなくなるというのは本当にもったいないことだと思うので、それをやめてしまうというのは、私たちはやらないので、表彰事業として見直す。どちらにしても本年度はまだ募集をかけているので、『もしかしたらなくなってしまうかもしれない、大臣賞をとるなら今だ』と、ぜひ今年度応募してほしい。ただ、どちらにしても応募点数がぎりぎりです。こちらから言わなくても、もう大臣賞は出せませんと言われてしまうかもしれない状態です。なので、もしそういうふうに使われたら、強制的に表彰事業というのが無くなるということになるので、もし今回『それは嫌だ』ということで応募点数が増えたら、延命にはなるかもしれないんですけども、では次、ここにいるメンバーが変わった場合、2年3年経った時に同じ状況になってしまう可能性があります。そうするとまたずっと繰り返になってしまう。

急には無くなりませんし、私たちが無くしますと言ってできるものでもなく、農林水産省とも話をしていかなければいけないものなのですが、ちょっとそういう方向性を持って

いるということを知っておいていただきたいということと、それがなくなっても、代わりに地域活動部門で出してもらったりとか、先ほどの4Hグランプリといったような、皆から『あれが楽しみだ、あれを見に行きたい』と言われるような、今の時代に合ったものを作り上げていくこともあわせてやっていく必要があるということは感じています。

先ほど、(優秀クラブ表彰は) 審査がすごく膨大な資料を用意して紙ベースでやるという話をしましたが、4Hグランプリということになって、たとえば審査員は全協に一任するというふうに言ってもらえれば、紙ベースにしなくても、メールでもらったものを共通のフォーマットにして、その中で上位3組を決めてというように、かなり手続きは簡素化できて、無理なく続けていけるものになるのではないかと思います。

今の4Hグランプリはちょっと飛んだ話ですが、もし優秀クラブ表彰がなくなった場合に、そういうものがあるのもいいのではないかなという意見なんですけども。

優秀クラブ表彰については、今の時代に合っていないものになってきているのではないかなという意見でした。また、各ブロックでもこういう話をしてもらって、明日の各県の活動事例発表の中でも、少しその話もできれば嬉しいかなと思っています。

青森 長峰

プロジェクト発表の規約改正で、発表者は1名とかというように厳しくしたと思います。複数人の発表にすると、表現の幅も広がるという意見の一方、審査を公平にするためには幅を狭めて内容重視にしないと公平に審査できないのではという意見が出て、そのような規約になったと思います。それはそれでいいと思いますが、私個人としては発表の幅を広げたほうが聞く人が面白く、聞きやすいかと思いき、厳しくしてほしくなかったというのがありましたけど、先ほど鈴木会長が言われたように、優秀クラブ表彰に関してはプロジェクト発表の枠にはめてしまうとそのように厳しい方向に行ってしまうので、地域活動部門は地域活動部門で残して、それとは別に自由に別の方向から攻めることができるような発表する場があれば、2方向あれば、面白いものになるのかなと思いました。

熊本 宮崎

クラブの紹介を自由な形でやるというのを、熊本県では昨年からやってまして、県大会の審査の時間に地域活動発表というのを、昨年から形を変えてやっています。

内容としては、地域の活動をフリースタイルで、何でも来いと、4Hの若手の勢いを出す時間があるのもいいのかなということで昨年試みてみました。パワーポイントを使って真面目に紹介するクラブもあれば、パフォーマンス的なクラブもあったりしました。漫才やカラオケ大会のようなところも。

私としてはそういう時間があったほうがクラブが盛り上がると思っているので、やりたいんですけども、場所などを考えると、ある程度のルールは必要かと。

4Hグランプリというのは、非常に賛成です。

執行部 鈴木

奈良県の60周年記念大会に参加したとき、懇親会の席で非常に面白おかしくクラブの活動を発表されていきました。あの時というのは、皆笑いが絶えませんでしたし、すごく集中して見ていたと思います。そういうかたちの、一つのちょっと面白い部門というところで、ああいうのも良いなと思いました。

奈良 乾

近畿は非常に仲が良いのですが、なかなかクラブ員単位ではそこまで交流できないということもあると思いますけど、あのような奈良県のような発表を使えば各地区にどういうク

ラブ員がいるとか、交流という点でも良いかと思えます。

鹿児島 中尾

先ほど鈴木会長が言われたように、優秀クラブ表彰は膨大な資料が必要で、それが審査する側も大変であるというのがありました。私の県でも、優秀クラブを出すのに県の担当者が、これを出すのはものすごく大変という声があり、出すのが煩わしいから応募点数が少ないのだと思うので、そこをもう少し簡素化できないだろうかと思えます。そうすれば出す側も、審査する側も楽になりますよね。地域活動部門はプロジェクト発表なんで、手続き楽ですよ。というのもあるんで、書類審査にするにしても、もう少し簡単にできないかと。

また、先ほど大阪の会長さんが言われたように、この賞をあまり知らないということもあるので、DVD作るときに優秀クラブ表彰の受賞クラブの発表も収録すれば、こういう活動があるということも目に触れるかと思えました。

執行部 鈴木

審査が書類だけしかないので、追加書類をどれだけ付けるかが書類審査で大事になってきてしまうので、徐々に書類が多くなってきた経緯があるのかなと思うのですが、どうしてもこのままの審査方法を続けていると、みんな、出すからには勝たなきゃと、紙が減っていく方向にいかないのかなと感じています。

簡素化も試みていて、『書き方が分からない』という声に対して、書き方のサンプルを作成してみたりとか、手は尽くしてきたところはあるんですが、なかなか難しいというのが現状です。

鹿児島 中尾

枚数の上限を設けるというのは？

執行部 鈴木

今が、新聞に掲載された際の切り抜きといった添付資料の枚数の上限が20枚。応募してくるものは結構上限ぎりぎりまで添付されていて、現状のようになっている感じです。

岡山 豊福

今、皆さんの話を聞いていると、マイナス思考というか、やめて新しいことをしたほうがいいんじゃないかという話が出ていますけども、逆に、プラスに捉えている人が少ないというか、なかなか情報が入りづらいので、決めかねてどういうふうにしたらいいんだろうと悩んでいるところなのですが、全国の中には『今年こそ!!』と思って応募しているところもあると思います。そういう人をここで切ってしまうと、納得されるのであればいいのですが、そういう意味での問いかけというか、発信はしていくべきかなと。その上で、やはりみんなのモチベーションが上がらないとか、逆に、義務的にやるよりはもっともっと違うかたちで発信していくという方向のほうが私たち農業者にとってはいいと思うので、その中で天秤をかけながらやっていただくとこちらでもまたできると思うので、よろしくお願ひします。

執行部 鈴木

今年の出展数というの、一つの基準のラインになってくると思うので、そこで数が増えてきてるのにスパッと切るというの、いけなないと思いますので、どれぐらいの数になるかというのはこちらでもしっかりと見て、それをもとに考えていきたいと思ひます。どちら

にしても、今年度は間違いなくやりますので、もしかしたらそうなるかもしれないということで、もし今まで温めてきたものがあるならば、各道府県の担当の方に、『ぜひあのクラブ活動だけは出しておこう』と相談してもらって、ぜひ出してもらいたいと思います。

岡山 豊福

無くなるかもしれないという体で、普及員等と話をしていけばいいということですね。

執行部 鈴木

実は会議前に農水に確認をしておこうと思ったんですけども、なかなか連絡が取れていませんで、そのあたりの部分がまだはっきりしていないところがあります。

兵庫 都倉

当県で地方クラブに優秀クラブ表彰の依頼をかけたところ、4Hクラブの枠を超えた、他の地域のクラブの方との交流の中での活動といったものが増えてきていて、単位クラブの表彰に落とし込むのが難しい、という返答が返ってきました。

全国的にも、皆さんいろんな団体と連携されているいろんな形で活動されていることと思いますし、現状クラブ員の人数も減ってきている中、どうしても他団体やOBとの連携が増えてくるのではというのがありますし、その中で、表彰に出すのが良いのかなという思いがあります。

北海道 久末

農林水産大臣賞は、やはり重い賞ですし、それに伴い審査も厳しいものになると思います。大臣賞に代わる賞を4Hクラブで作るというのも案ですが、大臣賞に代わる、もう少し基準も軽いライトな賞を国のほうに作ってもらうように頼むというのはどうかと思ったのですが、そういう働きかけはできないでしょうか。

応募しやすい形であれば、地域の活動を広めるきっかけにもなると思うので。

執行部 鈴木

他の国が出してる表彰事業も、組織を表彰したりするものはやはり書類審査で、賞を取られた人の話を聞いたりすると、資料が紙ベースでどんどん多くなったりですとか、推薦人がどこまで偉い人が推薦をしたかによって評価が変わったりですとか、やはり賞を軽くするというのも、どちらにせよあまり変わらないのではないかという感じもあります。

青森 長峰

兵庫県さんの話しにもありましたが、4Hクラブ以外の農業団体もあり、青森でも有志で作っている団体があってその中に4Hクラブ員がたまたま何人か在籍しているということもあるので、募集範囲を、そういうところもすくってあげれば。

青森では地方クラブが少なく、推薦する選択肢が少ない状態。各県には4Hではない青年農業団体もあると思うので、そういうのも掘りあげてあげれば、面白いかなと。選ぶ範囲が広がれば、書類も上げやすいかと思いました。

執行部 鈴木

クラブの範囲を広げれば増えるかなとも思うんですが、結局、今でも多くのクラブを抱えている県もあると思うんですが、その発表資料を作るのがあくまでも自分たちで無いというところが一つのポイントなのかなと。いろんなクラブ、4Hクラブ以外のクラブを掘り上げてきたときに、もしそこが民間でやっている団体であったとしたら、事務局をやって

いるのはどこなのか。半ボランティアみたいな人がやっていたとすると、その書類作成に対して、どれくらい前向きにやってくれるかということもあると思うので。

みんな、時期が来たらそれぞれ県の担当の方に相談はしてくれてると思うんですけど、一回、『あの優秀クラブ表彰は、どれくらい負担になってますか。もしくは負担になってないですか』とか、もしくは優秀クラブ表彰について県の担当者の方に向けて、確認と、そしてこれまでの感謝を述べてもらって、それを踏まえた上で、もしかしたら、『あの賞が無くなるなら、俺たちは大賛成だよ』という声も、あると思うんです。先ほどの鹿児島県さんの意見もそうなんですけども。

なので、私たちの中だけで議論するとどうしても『残したほうがいいじゃないか』『いろんなやり方があるんじゃないか』という意見が多くなりがちだと思うんですけど、一度、実際に書類を作っている方が分かっている人はその方に、だれが作ってるのかわからない人は、県の担当の方などに確認してもらって、『あの事業って、実際どうなの？』という話をしてみてください。それをもとにまた意見を伺いますので、青年農業者の意見と、そして青年農業者の面倒をいつも見てくださっている県庁の担当者の方の意見を、今度は併せてお聞きしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

1 日目 審議終了

第2回会長会議 2日目

【議事概要】

鈴木会長挨拶 略

書記の変更

書記を北陸理事・長橋努 東海理事・山崎理未に変更

H28 全国青年農業者交換大会 関東ブロックの報告

長野 小澤

昨日冒頭に等実行院長の山本より発言を頂きたいとの予定で延期をしてもらったが山本が都合で不在のため代理として私から報告する。H28 全国青年農業者交換大会開催資料より、来年は長野県を中心とする関東ブロックで協力運営をする。

1. 趣旨 略

2. 主催 略

3. 後援 略

4. 開催期日 平成28年7月20日(水)～22日(金) 300名程度

時期に関しては作目によっては厳しく忙しい時期だと思うが、逆に農業が盛んな良い夏場の時期ということでこの日程の設定をした。

5. 参加者

6. 大会テーマ 「VIBES

大会スローガン 「共鳴せよ熱き農業の血脈」(作目や地域を超えて煮えたぎる熱い思いを伝えあいたい)

7. 開催場所及び行事内容

まだ仮案だが、初日に長野市内で関東ブロックのプロジェクト実績発表会、交流の夕べを行う。21、22日は長野県2コース、栃木県、埼玉県にそれぞれ1コースにてバススクールを行う。3県は作目が多様であり参加者のニーズをほぼ網羅できるかと思う。各地において交流会を設定している。

8. 大会の参加費用 全日程参加¥38,000

他には一部参加などの4パターンの料金設定を考えている。

視察コースもなるべく同世代が取り組んで入る視察のコースを検討している。大会のオフィシャルの広告ツールとしてfacebookを作成して運営状況を報告しているので、地域でその認知共有を進めてほしい。

第4号議案 協議事項

・各道府県連活動紹介

執行部 鈴木

事前配布のアンケートをもとに話を進めていきたい。大事になってくるのが問題を解決するための方法やクラブの誇る活動取り組みについてとなるのでそのあたりを中心に話し合いを進めてほしいです。

北海道 久末

道内は役員全体が広く各地に広がっており業種も酪農、畑作、稲作と様々であるため農繁期もばらつき、なかなか役員同士の直接のやり取りが難しいです。現在年間 4 回ほど役員会議の場があるが、それ以外にスカイプやラインなどの SNS を使った密な連携に取り組んでいます。他には、加盟社不足の問題としては道内の 14 の振興局の内 5 つのみの全協加盟率となっており、新規の加盟への取り組みとして歴代会長が個人的に各地方の農者会に向いて各地方との情報共有や関係づくりに努めています。

青森 長峰

私が以前 6, 7 年前に県連の仕事にかかわった時、農業者が暗いというか各地区の農業者を集めても地区も地学作物も違うとあまり話をしませんでした。会議をしていても会長と事務局だけ淡々と話を進めていて、他の人は黙っていて会議が終われば帰るだけで楽しくはなかったです。しかし次の会長の時から会議終わりに飲み会を行いざっくばらんに話し合いが生まれるようになりました。その後会議の雰囲気も良くなり他地域の人たちでも会議を行うと雑談をするようになって今はむしろ雑談ばかりで会議が進まないくらいになったほどです。ともかくその結果現在は県連の役員は雰囲気がよいかと思います。そして各地区から来られている方の中がよいと地区間に顔見知りがいる状態なのでクラブ員は減少しているが密に連携は取れている感じはしています。

茨城 関

これは質問 8 と 10 にかかるとはありますが、県内の 4H クラブはたくさんあるが県連への加盟は少なく加盟しているクラブであっても県連のイベントへ参加する人が非常に少ないという中でアンケートを行い、本当に求められているものは何かというものを開催時期や内容、回数から調査し、県連運営計画に反映させて県内開催の「ZAK BARAN」という異業種交流と銘打ってのクラブ員同士の交流会を開催したり、農業青年ラボの勉強会を行ったりしてそのアンケートを役立てているということと、情報共有ということで県連だよりという会報を年に 3, 4 回発行して県内各地や県連、関東ブロック、全協の活動を各地のクラブ員に行き渡るようにしています。

議長 宮野

県連への加盟が少ないということだが、どれだけの地区がありどれだけ加盟しているのですか。

茨城 関

クラブ数は非常に多く 100 以上ありまして本当に各地区の 4H クラブ以外にも農業団体が立ち上がっているという地域もあり、全部は把握しきれていないというものもあるがその 100 くらいあるうちの 8 クラブとなります。

議長 宮野

そのクラブというのはオフィシャルの事務局がついているのが通常かと思うが、そうでないものも加盟できるということですか。

茨城 関

加盟したいというお話があれば歓迎だが、そういう話はまだないです。

栃木 吉原

質問 10 の方で補足としまして、フレッシュファーマーズマルシェ県主催直売会とあるが、

これは栃木県青少年クラブ主催のものなので誤解を招くため訂正をお願いします。質問 8 の方の問題解決のための動きとして、世代交代に関しては問題はないのですが、この役職は何をやるのかという業務の伝達にトラブルが起きて、今年度は解決のために内容をまとめた綴りを簡潔ながら作成をしています。あとは質問 6 の事務局とクラブ員との情報共有ということでは、県で会議を行った際に地区連絡報というものを作成し、それを地区の代表の方が持ち帰り、県の方が連絡事項がある際には話して下さいということで連絡は回し、そこから単協の方に回ってそこで問題があれば随時挙げてくるという形をとっております。連絡情報共有に関してはうまく機能していると思います。

議長 宮野

落としやすいレジメを理事に渡して、情報を周知していくということですね。

栃木 吉原

役員としてあがっている方が情報を共有し、逆に情報があればそれを上げてきてもらうということをしております。

埼玉 齊藤

東京にも近いということもあり都内近郊の 4H クラブはクラブ自体が大きく県連に加盟していないものが多いです。実際、県令に加盟しているものは 15 くらいあり、振興局のある事務局は 20 を超えているかと思います。それぞれが独特で強いクラブになっていて県連で集まる際には情報交換位となっています。それでも県連加入する意味ということで加盟していただきたいというのが課題となっていて、県内で加入した際の得を考えたとき、今までリーダーズ研修という視察研修中心の企画を行っていたのだが、現在は農コンなどのイベントを行うようになりました。ほかには自分の農作物が売れる場所など幅広い目線で広げるためにも、県外のイベントにも積極的に参加をして販売経路などを作り、県でブースを作るなどの試みも行っています。

議長 宮野

結局マッチングのできる県連になれば、非加盟のクラブも魅力を感じて参加するのではいかということですよ。

埼玉 齊藤

そうですね。あとは全協でいえばぐるなびというような農業以外の関係団体との関係も利用していきたいですし、密になってきている全農さんを通してイベントに参加してよい集客もあったので、農業界に縛られずにそういったところも紹介していったらと思います。

千葉 高山

千葉県は一度県連の組織が消滅してしまったため、6 年前に再度立ち上げたのだがその時のメンバーで変わらず続けているため、だんだんと活動が低迷しはじめ、千葉アグリネットワークという名前で活動しているがその知名度が低く、現時点で引き継ぐ人材が不在という状況で、それを青年農業者会などで説明をしているのだがそれほど集まっては来ないというのが現状です。何かしら良いアピールの仕方など今日聞いていてちょっと勉強したいと思いました。

長野 小澤

長野県は地理的に南北に長く山岳地帯で遮られている関係上、県内でも遠いという状況が

生まれています。歴史的にメンバーは存在するが各地域に十数クラブは存在するが、現在の県連の執行部自体は地域の各クラブから1名から3名まで地域を代表する理事として県連に上がってくるというような形で参加いただき、その流れで活動費用を徴収し県連の活動に活かしていくという形です。そのため活動自体は資金不足ということではなく十分に行えていることに感謝をしております。問題に関しては、質問8などですがご存知の方もいるかと思いますが、県内にはタレントが多く外に出ていく人材が多いので、ここ5年ほど様々なメンバーが会長会議にも来ておりましたし、当時の会長が4Hというものの紹介としてオブザーバーとして連れてきてくれていました。僕もその一人でしたし、そのような形で単純に業務を引き継ぐだけではない世代交代やその熱量を伝えてあげることが必要だと思うんですね。そこは非常に難しく次年度以降やその先の将来を考えた時に先輩たちから受け継いだ熱量というものを後輩たちに焚き付けていけるのか、伝えていけるのかということが今はひとつの課題となっているかと思いますが、そのなかで4Hクラブとは何という声も地域から出てきているという声も聞いていますので、県連で行うような定例会については例えば長野市など一か所で行うのではなく県内を出向いてローテーションをしていき、その夜に交流会をセッティングしておいて地域クラブの方々と意見交換交流を行うといった動きをここ2年くらい行っています。

新潟 小林

資料の記載にもあるように普及部の方にご協力頂き、法人の社長などの集まる場での青年農業給付金申請において4Hクラブを紹介いただき、加入するとういうと特典があるということを伝えてもらうようにはしています。新潟県は地域会員の減少と法人就業者の増加に伴い県連事業への参加率が低くなってきている課題があり、法人事業者は県連事業の開催を土日の開催にしてほしいという要望が大変高く、昨年度から年一回の研修会をそのようにし、参加を促したが参加人数としては増えていません。今までの研修会は聞くだけのものがとても多くて、もう少し参加する意味が増せば思いまして動きのあるワークショップやグループ討議などを行い、結果参加人数は増えていないが固定されたメンバーは少しずつ増えてきていると感じています。

富山 松田

富山県も苦戦している状態で、青森の会長さんが言われたようなものと似た状況で、各県役員の間差が激しく、予算が厳しいという状態が続いております。並行して似たような対策をとっており飲み会も開くが同じような顔ぶれになってしまい対策不足を感じており、ぜひこういう場で皆さんから学ばせて頂けたらと思っております。

福井 川村

今回のアンケートに関して、過去に遡ろうとしたが、県の書類は5年では破棄できるとありそれ以上は遡れないということで、わかる範囲でフェイスブックなどイベントや大事な出来事を入力していくことで、僕も次の方もそして10年後の人も過去についてわかるかなと今そちらに取り組んでいるところです。他には、県内でも最近4Hクラブに加盟するような再編もあったが、大体農業人口と比例をしていて、増えると4Hに行こう、減れば辞めようというような流れがあります。現在は減少傾向にあるため、業務的な厳しさから組織を簡素化していく必要があると思ひ、なるべく県連以外のものはスリムで自由で行えるという感じで取り組んでいます。今年は県の職員がほぼ総代わりのような体制となりみんな1年目ということや中には社会人になったばかりの方もおられるので、イベントなどが後手に回っているので、この時期には講師の方を決めようといった最低限のマニュアルを作る必要があるかなと思っております。

滋賀 湯ノ口

県内はやめる方も多いが入る方もいるので人数としてはそれほど変わらないです。最近は農業法人などの従業員の方も多くなってきておりその方もどんどん加入していただくよう心掛けて、地域にいる若い方など声かけには行っているのですが、少しずつですが増えてきているのかとも思います。また、たくさんではないですが女性の方も声かけを行い少しでも入っていただけるような工夫もしています。そして県連の会議でも年が変われば県連メンバーも地域から来られる理事も新しく来られる方が多く、初めて見る方も多いので会議するときに1分程度で近況報告を行ってもらうことにしており、県連内でもどんな作目を作っているなど各々の活動がわかり、またそれについていろいろと質問や課題など共有もできるなどの機会が生まれています。会議後に帰ってしまう方も多いので、交流会も数回に一回は行い中を深めてもらうようにはしています。他には県連と各地域の交流というのがありますが、滋賀県では毎年勉強会とものを開催しており各7地域に組織があるのだが、毎年順番に会場を変えて勉強の内容を決め、そして視察を行い、夜は懇親会を行い、地域間交流も盛んにおこなわれているように感じていますし、今年に関してはみんな仲良く楽しく活動できているかと思っています。ただし他県と比べると人数が少ないということもあるので、さらに魅力発信を行いJAなどにも4Hの魅力を理解してもらいながら活動を続けていきたいと思っています。

議長 宮野

7地域を回している勉強会というのは県大会以外にということですよ。

滋賀 湯ノ口

そうです。勉強会とプロジェクト発表の県大会の大きな柱が2つありまして、毎年の勉強会で地域を変えて7年に一回各地域に回るようにしています。

京都 桂

京都府の問題も皆さんと似たようなところがあり、それは全協と府連の温度差であったり、参加者の固定化で来ない人は来ない、会員が増えない、加盟しているクラブが少ないなどです。僕も3年くらいこのクラブに入って思うのだが年間計画を決めるときに昨年これをしているのでこれをしましょうとか、この時期に交流会をしているからここで交流会をしようとかそういうことではなくてやはりクラブ員は何を求められているのかということをしつかりと吸い上げて新しい事業に取り組んでいかなければならないと非常に感じています。それが結局魅力的なクラブであったり、成長し続けるクラブであるかと思っております。そのような中で今年行った取り組みとしましては京都府のプロの料理人を招待しての研修会を行い、どうしても野菜を売るときに煮たらおいしいですよ、焼いて食べてくださいね、炒めてくださいねという接客からもう一步レベルアップした接客ができるようなことを目的としてプロの料理人に食べ方であったり火の入れ方であったり調味料の使い方であったりとかを学び、それがクラブ員の経営や営業につながるといったメリットのある内容を今後もしつかりと作っていきたいと思っています。ただ新しいことを始めるというのは非常にパワーを必要としますし、いろいろな調整であったりとか本当に多変なところでエネルギーがいるのですが、やはりそういうことを経験することが自分の仕事であったり活かせていくというところがあると思うので、去年これを行ったからやろうではなくて、新しいことをどんどん提案して行っていこうというところが大事なかなと思っています。あとはなかなか会員が増えないというところでクラブの仕組みの中で会員増強の委員会を作るとかもちょっと役割分担を明確化して仕事を割り振る動きが必要かなと

思っています。

議長 宮野

結構クラブ間での温度差は感じますか。

京都 桂

とても感じます。今日も東京の会議だといってもなんですか、それ？というくらいのレベルで非常に悲しい思いをしています。

議長 宮野

でも取り組みはしっかりとリサーチができていているというか、プロのシェフといった「個」のメリットを考えた府連というか、新しいですよ。時代に遭ったというか、時代の流れはまさに「個」に向いているので。

京都 桂

やっぱり4Hは結構仲良しサークルで飲んでいて交流していればよいというところもあるので、やはりそういう仲良しサークルというのも大事なのですが、きちり動いていくというところも大事で、そのバランス取りが大切かなと思っています。

大阪 木下

大阪府連としては質問7にも書いたのですが、現在30代前半というのはまとまっておりコアなメンバーで構成されているので安心感はあるのですが20代前半や新規就農者がなかなか府連の方に来てもらう機会や伝達が行き届いていないのが現状です。そこを改善するために僕ら府連や役員が考えたのは府内のクラブ員はJA出荷や市場、個人と様々なのでその方々に来てもらうにはということで定例会を月一回行っているが大体7時から9時まで会場が使えるので8時半に定例会は終わらせて、残り30分で飲食であるとか卸であるなど実際にメンバーの関わっている業者さん呼び、うちの会社はこういうことをしていて皆さんの野菜が欲しいですといった声や、他にはNPOの法人であれば買うことはできませんが提供してもらった際にはこうゆうメリットがありますよといったことなど実際に商売の話をしていただき、そのあとの懇親会でもっとコアな話をメンバーにしてもらうということをここ1、2年ずっと続けている状況です。それを行うことによって新規や若いメンバーにぜひ府連に来るメリットを感じてもらえたらなという活動を行っております。

議長 宮野

これも「個」のメリットというか。その中でクラブ員のスキルも上がっていきますよね。

京都 桂

その中で一つだけ条件として来る業者さんに関しては誰かの紹介で来るということだけは守っております。一人の府連のメンバーの紹介で来る限りは業者さんもその府連のメンバーの顔を立てなければいけないですし、正直変なことはできないというのがありますし、逆に府連のメンバーからすれば誰々の紹介で取引している業者さんが来てくれているので安心感があるので。

兵庫 都倉

現状としては人数の減少という皆さんがお話になった問題は出てきておまして、県連や単協4Hクラブというものの自体の価値というものが、私もこのクラブに携わらせて頂いて

7年になります、入った当初から比べますと各クラブ員の4Hに対する価値観というのが相当変わってきていまして、なぜそうなってきたかというところ兵庫というところの土地柄ということもあるかもしれませんが、日本の縮図といわれるように北から南まで国内のすべての気候が存在しているというところで、それに応じた農業形態というか各地域の農業があるという風に各自治体が個々の研修であるとか、農業者に対しての活動を各々行うもので、どうしても農業者が4Hに加入する意義というものが段々と薄れていっている現状があり、そんな中で県連もどのようなアプローチで参加を呼びかけるのか非常に悩ましい状態で、僕らも4Hクラブで活動する素晴らしさを伝えるのが難しいと感じています。

奈良 乾

県内の農業の状況ですが生産額が全国で下から2番目で、高齢化もかなり進んでいるという状態です、それに伴い4Hクラブの年齢層も上がっていて、地区単位でみると10年前に16地区存在したのが今は11地区にまでクラブ自体の数も減少し、県連に10年ほど前はほぼ瀬部とのクラブが加盟していたが、現状2地区で回している状況になっていまして、本当に今が末期の状態なので、逆に考えると無くなってしまいか、ここから良くなるしかない現状にあるのかなと思っております。そして今取り組んでいるのが、僕が入らしてもらってから交流の皆無であった非加盟の団体へ実際訪れてみてどういった現状にあるのか、高齢化が進んでいるなどの中にも若い方がおられたりであるとか、以前の県連では見えてこなかったことが実際に現場へ足を運ぶとどういった現状になっているのかそういったことが実際今理解し始めているところなのですが、例えば今までは地区で加盟であったのをこれからは個人加盟も可能にできないかと僕自身は考えているのですが、実際に会うことで興味を持ってくれる方もいます。そういったところを救い上げるということと、16地区が11地区になっているということは以前あった地域には4Hはなくなってしまっているということなので、若い方がその地区で就農の際には県連がその受け皿となれないかなど考えているところではあります。あとは質問2の方で奈良県はやや満足していると書かせてもらったのですが現状は県や公的機関から補助金を一切頂いておりません。実際はもらえないという形なのですが、ではなぜ満足しているかというところはいろいろな企業から資金を頂いたり、飲食店組合や食文化研究会というような他の団体と協力して事業を立ち上げたりですとかそういった中で補助金に縛られない自由な活動ができていて、それによって県連もポテンシャルが上がっているのではないかと考えていて、今は世間的に補助金がカットされていく時代の中でできればその方向に進んでいければよいのかなと僕は考えているところです。まだこれからだとは思いますが、結果が伴ってきまじたらすごくうれしく思います。

島根 西尾

島根県も皆さんのおっしゃられる問題を抱えていたり高齢化は、日本で2番目に進んでいる件であり、以前の広域合併でクラブ員が減り把握しやすくなったと思いき、県に上がってみると、実は発表者が減るといふデメリットも見えたりといろいろな問題はありますが、そもそも僕もクラブの存続意義を県内で話し合い、やるのか辞めるのか、お金を払って全協に加入する意味があるのかどうかそこまで実際に議論し、散々みんなと話し合った末にこの会のメリットであるとか、まあみなさんが言われたように人それぞれにメリットは異なるわけですし、この会に入っているだけでも予算も限られますのでどう転んでも金銭的なメリットはないであろうと思いき、加えて単協が元気でなければ県連も元気にならないであろうとずっと単協の会長をさせてもらっていたのですが、ここまで問題が大きくなったのであれば県に上がってということ。僕が思うには元気に活動をしているだけでもこの会の存続意義はあるのではないかとこの問題が投げかけられた際に思ったので、この問題に立ち向かうた

めにいろいろと行おうとも思いましたが、今年で県に上がって3年なのですがスタッフに恵まれて、僕も根を詰めて考えてから行動をする方ですが、元気になるためにはどうしたらよいのかと考えた時に、会員や主に役員のやりたいことをできるだけやろうということで、忘年会がしたいと聞いたので3年前から始めるなど、このような当たり前のことを行い、今は再構築をしていくことが当県では問題解決になるのではないかと考えております。

岡山 豊福

私も島根の忘年会に参加しますので、ぜひ一緒に参加しましょう。岡山県のクラブ員は500人くらいと多いのですが、動いている人は一握りという風になっています。そのなかで人と結ぶのは重要でその中で一緒にがんばれる人は必要であると感じたところです。県内では各市町村が必ず県協に加盟をしましてそれぞれの地方協から必ず理事と会長が任命されるのですが、県協理事だけがその理事会に上がってくるわけですね。なので、上がってくる方はじゃんけんで負けた人か変わり者かくらいしかいないんですね。なので、県境事態で活動をしていくときに会長と直接話をしないのでなかなか円滑化というか、情報を各地方協まで落とせないという状況に陥り、その問題に気づいたので県協理事を会長を含めて会議であるとかきちっと情報交換をしていかなければいけないかなと思っています。会議のほかに役員などでスカイプ会議を行ったり、理事会後の食事会など僕たちも定期的に行っております。先ほども言った通りやはり人が動かすものなので、人との連携は大切にしていかなければいけないかなと思っています。あとは私たちの地域では女性理事というのがいるんです。各クラブ員の地方協とは違う立ち位置で女性クラブ員の理事というのがあります。この立ち位置というのはどうであろうとずっと話されてはきたが、たぶん今年度か来年度辺りでこの女性理事というのが、今活発に動いている岡山女子というものがいるのですが、そこで農業女子というくくりを作ってもらってどこの地方協にも加盟しない県協の直属のクラブとして加盟してもらおうというのも考えながら行おうとしているので、地方協に属さないグループも県協が公認するという形で加盟クラブをこれから行い盛り上げていけたらと思います。

福岡 野上

僕たちのクラブは情報交換というところでは皆さんと同じでラインを使っているのですが、県連と事務局のライングループとはまた別に単協会長のライングループも作っています。そのため情報共有は十分にできていると思っています。ですが、地域同士の交流がなかなか活発ではないです。長野県の小澤さんが言われたように理事会を各地域で行うという案もよいなと思いました。参考にさせていただきます。県連の事業の参加者数においてはみんな作業の忙しい最中参加いただいているので特に不満はありません。

佐賀 中島

活動としましては一昨年が一地区が抜けて現在6地区で活動しています。佐賀は各地区の単協も印象としては一生懸命活動をされていて盛り上がっていると思います。逆にそれが県連で活動を行うときに各地区が忙しく予定が詰まっているのでなかなか参加いただけないというのもあるので、それは良い悩みなのですが、やっぱり各地区に面白い方がたくさんいるのでなるべくそのような人がマッチングできる役割を県連が担えればと私は思っています。その面白いアイデアを今年度はアンケートを取っていろいろな意見を吸い上げました。その中で若手クラブ員もいるのですが、結局4Hって何とって活動しているんですね。そもそも4Hとは何かわからずに活動をしていて、楽しくは活動されているのですが、その対策と参加人数ですとかそもそもクラブの参加者を増やすためにポスター

とパンフレットづくりを行いました。県連の広報部があるのですが、今までは仕事がなく何もせずに1年が終わるということもあったので、県連の活動の一部としてもこのポスターのパンフレットづくりというのも行いました。これは佐賀県青年農業クラブと4Hクラブというのを同時に記載してそれが同一クラブであるというのをきちんと意識させるのとその4つのHはこういう意味があるんだよというのを広報部で作し、今月と来月にかけて農業大学校、農業高校、そして各普及所に張ってもらう予定にしています。なるべく地方の若手クラブ員に集まってほしかったのでそういう方を人選して出してもらい、また夏の集いというレクリエーションの場でのボーリング大会の場でポスターのセンター権というものを与えて、その権利を若手のクラブ員がセンターになるようにうまく誘導するなど若手同士が地区同士でかかわりあえる仕組みづくりを意識しています。その他県連の活動ではないのですがその6地区の中である地域で2地区間交流というのを行っており、地区同士で活動をしています。そういうものがほかの地区も取り入れたら県連には参加せずとも隣の地区とは密に交流するよという割と若手クラブ員としても隣の地区ならば参加がしやすいですし、他の地区の方も交流できるということができたらと思っています。あとは県連の活動をするときなるべく地方のクラブ員の圃場に足を運ぶ研修を増やし地方の単協を活かす活動を意識しながら動いています

議長 宮野

若手を意識されているというか、佐賀も農業者数の多い県ですよ。

佐賀 中島

加盟は140名くらいです。ちなみに新潟県で農業給付金の話が出たので関係して言いますが、岩瀬副会長の地区が確か農業給付金を取る条件として4Hクラブに加盟することでしたよね。

執行部 岩瀬

4HのPRも含めて農業青年給付金を取る条件としてクラブに加盟することを条件としています。

佐賀 中島 クラブ員150人居ても50人は1地区の人数で農業青年給付金の条件地区です。クラブ員の話を見るとクラブ員数は多いが幽霊部員が多いと聞きました。条件の為加盟はするが参加はしないも多く一長一短だと思いました。

議長 宮野

これは行うべきですね。農業青年給付金を貰うということは新規就農か後継者なので本来はネットワークを求めているはずなので、そこできちんと新規のメリットを見出せる活動をしていけばもっと他地区も真似して行くと思うし、県連が窓口となり事例発表をすると思います。

長崎 尾上

消費者交流、県大会をメインに、活動しています。兼ねて交流会も開催し県連と地区連の交流を図っています。数年前まではリーダー研修会を実施していましたが、日程等が合わず2年は開催していません。県連と地区連の間に溝があるのが現状です。県では決まった事を報告しますが、上手く県連理事を通してクラブ員に伝わってなくて、リーダー研修会の復活や、時代にあった活動、地区連への連絡体制、県連へ加盟を促せる環境づくりをしっかりと行い活性化して行きたいと思っています。資料に書かれているような活動を参

考にして元気な長崎県連にしていきたいと思います。

議長 宮野

長崎県のクラブ員の人数は？

長崎 尾上

クラブ員は 400 人強居ますが、島原地区だけで 200 人でその他の地区は 50 人ほどです。

議長 宮野

地区にはそれぞれの色があるので県連が纏めて引っ張っていくのはなかなか難しいと思います。会長さんは一番分かっているので何をクラブ員に落としていくのかをまたみんなと相談できるといいと思います。

熊本 宮崎

熊本県は県連と 11 地区のクラブから構成されています。特徴は、各地区の 4H クラブが盛んで、県連の会議が月 2 回で、1 回目は役員会、2 回目は会長会議で県連の取り組みについてや、各地区会長から近況報告をしてもらっています。スカイプ会議は一切無く必ず顔を合わせて会議を行います。

熊本の県大会は 80 課題くらい上げて地区で総合順位を決めます。1 人 2 課題行うクラブ員も居り地区で協力しています。これが盛り上がっているのではないかと思います。

熊本は他の農業団体もありますが、熊本 4H は行政のサポートがしっかりあり、予算も付いているので、交換大会等にも個人の負担少なく参加できます。

また気を付けているところが、仲良しクラブも大切だが、仕事の時間も割いて出てきているので、県連の役員したら自分の実になるような研修会をしたい。

今年からは県の予算を増やしてもらい海外視察研修を入れました。今年が第 1 回目で、21 日から香港に行きます。毎年行き先を替え、今後も海外研修を取り入れようと思います。

広報部で役割を決めフェイスブックで情報の発信も行っています。

熊本県の課題は、世代交代が早いので 20 代で 4H を卒業するので、経験とリーダーシップを持ったクラブ員が早めに居なくなってしまうています。世代交代はしてるけど上手く引継ぎが出来ていないので解決したいと思っています。

クラブのメリットは仲間が増えることだと思うので、日本 4H 会長会議、交換大会、九連の行事に人を連れてきたいと思っています。来年の長野には 100 人くらい連れて行けるくらい大勢連れて行きたいと思っています。

議長 宮野

海外研修は県連から県に投げたのか、逆に県から勧められたのか

熊本 宮崎

県からこれだけ予算を増やすから、是非海外研修に行ってみないかと勧められました。県連に予算付けの他にも各地区にも予算の割り振りをして、それを使って行きましようと呼びかけています。

議長 宮野

熊本も広いですが、11 地区あって月 2 回の会議は開催を何処で行っていますか？
遠い人は遠いですよね？

熊本 宮崎

熊本県庁の近くの青年会館で行っています。

遠い人は2時間半くらいかけて来ますが、農繁期がみんなバラバラなので無理はしなくていい来れるときに来て役割を果たせば良いと思っています。

大分 平山

加盟人数を過去10年を遡ると200名いたのが、10年の間に100名に減り、3年前には80人ほどになってしまった為、今まで以上の声掛けをすることにしました。県、市、振興局で情報交換をしっかりと行ってもらい、会に情報を伝えてもらい、各地区を一緒に回ってもらい地域に情報を流し続け、会議の場でも状況確認等を徹底して行っています。同じ振興局の管内の中で非加盟の地域や組織事態が解散してしまった地域もあるので3地域合同で研修会等を行い、振興局の協力もあり年度初めには再立ち上げから再加盟してもらえたので、数年ぶりに100人を超えました。引き続き頑張っていこうと思います。

今まで研修会の開催が無かったので、県が主催し、若手はイベントがないと参加率が低いので、地域に研修に行く研修会を今年度練りました。1地区と県ではなく、3地区と県で合同で行うことで3地区の連携も生まれ共同で研修を行うことでコミュニケーションが取れたり、OB（指導農業士等）の農場視察や懇親会にも参加してもらい、横と縦との関係性をしっかりと深めていく事が出来たと思います。

昨年度60周年記念式典を行いました。その時にOBとの関係性を高めたいと感じたので、大分県を4つの地域に分けて視察研修を行うことで10年に一度ではなく4年に一度OBと視察研修等で交流することにより、繋がり続けられる環境を作るというのも大事なことだと思います。

熊本県からも海外研修の話がありましたが、大分県も3年前からプロジェクト発表で県の最優秀の人は海外研修でヨーロッパに行くので予算として30万程度掛かるということもあり、1名のみです。海外研修の話が出たのはお酒の席で県の部長と課長と当時の役員が話していて、やれたら面白いよねと話していたら課長が「俺が予算を集める」と言ってくださり、多くの方の協力もあり実現しました。

海外に行くには大変な面があり、思いのほかそれだけの予算があっても実際は、1日しか圃場視察の時間が取れなかったりして課題は残りました。

他県の方で、海外研修等に行くときに良い機構等の情報があれば教えていただきたいと思っています。

議長 宮野

合同の研修会の開催により加盟が増えたというのは凄く自信に繋がったのではないですか？

プロジェクト発表の最優秀者には海外というのは凄いニンジンですね。自分も直ぐに県に言いたいと思います。

鹿児島 中尾

①に関しては、脱退した地区連の役員会に赴いて、事業への参加を促すと共に再加盟を促す。また、鹿児島県は個人会員を認めていますので、脱退した地区連で過去県連役員経験者には監事になってもらうなど相談役として個人会員で残ってもらう等の活動も行っております。

非加盟者でも県の農者会での発表は認めています。九州ブロック大会や全国大会の場合は個人会員としてでも加盟してもらわないと出場できないようになっている。

③に関しては、鹿児島県は13地区中、種子島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島

と 5 個の島がありまして、離島の方たちはどうしても県庁で会議の際に旅費が高い、時間がかかるから仕事を空けられない等あり、県連に加盟するメリットが無いと言う声が聞こえたので、地区から県に納める金額の減免や、予算が組めるときには離島の方のみ交通費の半額補助等を行っております。離島の人たちは近い 4 つの島持ち回りで、奄美群島青年交流会というのを毎年行っているの、そこに県連が赴いて県連と島の人たちとの意見交換等を行っています。

④に関しての地区での持ちまわり事業では前夜祭や情報交換会、現地視察を内容に追加することで研修会の予算が使えたり、単純に飲み会等魅力的な内容にしています。

鹿児島県は農者会と青年交換大会、バレー大会、活動パネル展を行っています。農者会と青年交換大会の 2 本の柱は地区持ち回りで、バレー大会と、活動パネル展を行う交換大会では前夜祭のほうを、農者会では情報交換会と翌日に研修会を必ず行っています。

愛知 柴田

愛知県は 8 単連が活動しています。県と単連の関係性が薄く、県としても積極的に参して欲しいと思っておりますが、単位クラブの活動が充実してるから、上と関わらなくてもいいという声もあるので、今後は無理に活動するのではなく、単位クラブの活動を応援する県連にしていきたいと思っております。今年度はクラブ活動発表会を 1 月に予定しています。現在、県内のクラブ同士の交流会は行われているので、そこを応援していくように考えています。

愛知は愛知県振興基金があり申請すると、4H クラブに関わらず農業団体が視察等をするのに補助をしてくれます。先日の秋田県の交換大会の際にも交通費の半額程の補助が出る予定です。当日は 10 名ほど参加しましたが、半分は補助金が出るから行くという人も居たようですが、参加するきっかけになったので補助金も良い物だと感じました。愛知県からの補助金は無いので活動は基本的に 200 人くらいからの会費で行います。役員は持ち回りの為、仕方なく来ている人も居れば、積極的に関わっている人も居ます。

石川 宮野

クラブ員の増減はあまりありませんが、農業者が減少してて行政の力を仮ながら周知しています。自分が県連に参加して 3 年ですが県連というものをあまり周知できていない状態だったので、まずは地区連の会議に参加し飲み会にも参加して県連のハードルを下げて、直接知り合った人材を県連の理事として引っ張ってくると、県連自体のクオリティーも上がり、その上で近況報告や何がしたいのかを話し合ったり、活動の中で資金は大事なので、スポンサー企業を探しながら、行政関係各位のところには行って、自分たちのためにお金を出して欲しいとお願いしに行きますが、地区でも行っていないところがあるので、県連がやることで地区連でもやれるようにして予算の確保に努めています。

県連の周知は大事なので単純にバーベキューや県連の理事会の後には飲み会の開催等で硬くなく柔らかいコミュニケーションの取り方を充実させていく中で、バーベキューやハーベストをしようという意見が出てきたら、県連の他のメンバーがサポートして行き、必然的に意見力を持ったスキルの高い人材が集まっているので、地区では出来ないことを県連が出来るようにして行こうと少しずつしています。

年に 3~4 回ほど異業種との交流をしている。今年は和菓子職人と農菓プロジェクトというのを県の活性化ファンドを通してやろうとしています。和菓子業界も農業と似ていて、酒蔵もかなり似ているので、情報共有してどちらも伝統文化がテーマとしてあるので交互に力を借りて進化していこうということで、マッチングして百貨店でコンテストをして、1 位には販売が出来るという活動を中小企業活動中央会という農業以外の業種が全て集まる団体とグループワークを一緒にしたり、今まで県連の行事に参加しないクラブ員に自ら電

話し来てもらう様にしたりとしています。県連は高いイメージがどうしてもあるので、近い存在ということをご心掛けています。

議長 宮野

先ほどの各県の報告で疑問がある方はお願いします。
時間は11時30分までです。

大阪 木下

リーダー研修をやりたいが、どんなのがいいのか教えて欲しい

埼玉 斉藤

各地区の視察がメインで、昨年からは婚活事業を通して役割分担で協賛など担当者をつけて責任感をつけさせる。

現在事務局に頼りきっているので、広報部や総務部等役割を付け、今後の自分の経営に繋がるようにしていきたいと考えています。

熊本 宮崎

九州ブロックで熊本が研修会の担当で、今回は女性農業者をテーマとした研修会を開いて、熊本県にも女性農業者は居るが各地区点々としていたのと、思いがある女性が多かったが、なかなか繋がらなかったのも、九連の行事と一緒に九州各地から女性クラブ員を集め女子会を行いました。もちろん男性クラブ員にも参加してもらいました。内容は、女性クラブ員にはどういう思いがあるのか、日々の農業での悩みを聞きだすと共に男性クラブ員は男性のみのテーブルを作って、女性クラブ員がどうやれば参加しやすくなるのかなど意見交換会を開いて、そこに全協の安丸監事を招き講演と意見交換をした結果は、女性同士の繋がりも出来て、九連を挟んだことで九連や全協の存在があることをみんなに知ってもらえたので良かったかなと思いました。

議長 宮野

大阪は商談会など個にメリットを持たせるなどあると思うので、販売に近づけていける研修会ができるといいですね。

青森 長峰

青森も毎年リーダー研修会をやるが内容がなかなか難しく、作目が違えば出てこないし、経営の勉強会を行うにも家族経営だとまだ親の指示で仕事している人も多いので販売なら多少の効果は見込めるが、経営の研修やっても仕方ないので、手を変え品を変えバス研修やブレストも行いましたし、昨年は他団体と合同で大越顧問に講演会をお願いもしましたが、毎年みんなが求めるものや会長が変わったり、会議で出てきた意見を大事にしたいので、みんなが納得できる研修会というのはないので、どこかにスポットを絞って行えば割と万遍なく対応できるのではないかと思います。

長野 小澤

年に4回ほど、時期と中身を替えて行っていて、軽いもの～よりディープなものまで、参加しやすいものと、よりコアな人たちが来るものと分けています。過去にはコンサルを入れた経営戦略や思考力を高める座学を始めて、そういった物に嵌っていた時期があり、後で聞いた地域クラブの話では、選抜されたメンバーしか参加しなくなったイメージが定着してしまい、若手のクラブの割りにやる内容のレベルが高すぎると逆に難しくなったと

の意見があり内容の変更をしました。会議の場でいかにプレゼンを上手に出来るかの会議力を高める研修や、個人経営や法人経営関係なく雇用に関する法律関係の雇用労務やギャップについての研修を行いました。

内容を変えても参加する人が付いて来れる来れないが出てきてしまっているのも、本来であれば包括して全体が動くような内容にするのが県連の代表としては必要だと課題として思っています。

議長 宮野

全員に合うものはないので、ブロックやジャンルで分けるなどして、3年～5年で一回りするような感じで行っている人のところが多いのかと思います。

岡山 豊福

課題としてモチベーションや何に意義を求めていくかですが、熊本県さんの話を聞いていると凄く活発に活動している印象を受けました。

岡山県青壮年部は活発に動いていて、青壮年部は資金があるという話は聞きます。その中で4Hに求めるのはなんだろう、どう発信していけば魅力的になれるのか。資金は青壮年部より無いけど、来る理由を付けていかないといけないと思います。県協毎の目標があるのか、全協としての目標を聞かせていただければと思います。

熊本 宮崎

年間行事をしっかりと盛り上げてこなすのを目標にしている。随時やりたことを取り入れています。

会長 鈴木

全協ではクラブ員を何人まで増やす等の具体的な目標立てはしておらず、年度の初めにかかげるスローガンを元に一年度の執行部もみなさんを含めた全体の意思の疎通を図ることを目標としています。具体的な数字の部分ではこちらも出来るだけ経費の削減にも取り組んでいますが、詳しくは事務局長からご説明します。

事務局 森安

問題は日々の運営で、今までのことをこなすのにも大きな労力で、引継ぎのために全協からの発出文書はファイル1冊分ほどになるので、きちんとファイルして残さない引き継ぎない状況なのですが、引き継がないといけないので、きちんと引継ぎが出来るようにしております。

議長 宮野

課題は共通してるので、石川県は日本4Hがかかげたスローガンをそのまま使っています。

岡山 豊福

全協がかかげた目標を各県が下に落としていけるようなきっちりとした方向性があれば良いのかなとも思います。毎年1つのスローガンという形での共通認識でやっていけたらいいと思います。

議長 宮野

うちの代表が4H行って決めたスローガンなので、それを上手く県の会長が使い県

協に落として、全国のスローガンを元に目標を立てるといいのかもしれませんが。

岡山 豊福

役員や一部の会長さんが胸に着けている輝くバッヂは自分らも付けませんか？

事務局 森安

実は2年ほど前に私が勝手に作って、勝手に総会の前に販売したような感じになってますが、その時の会長と役員は持っていて、今年また200個ほど注文してしまして、農者会の発表者の粗品としての提供と販売も考えています。

岡山 豊福

見た目の共通も大切だと思うので

長野 小澤

日本一丸のテーマや思いを下に引き継ぐのが大変で、仕事を引き継ぐのはそこまで簡単だが、取り組むまでの思いの強さ、熱量を伝え共有していくのが難しいと思っていて、4Hの魅力伝える事と、熱量を高めていくという2つをいかに促していくかというのが必要だと思います。

研修を行ったら、参加者にお土産を持って帰ってもらえる内容にするようにしている。

熱量の共有に関しては、事業を企画しても参加者が少ない、地域クラブから上がってこないというのは、上手く伝わりきれて居ない部分があるのかと思います。過去には石川県連宮野会長、全協鈴木会長を招いて他県の様子を聞かせていただいた結果、鈴木さんと直接やり取りをしている人もいます。私の場合そういったやり方しか思い浮かばなくて、他県さんの熱の伝え方があれば参考にさせていただきたいです。

鹿児島 中尾

飲み会の席で、役員やリーダー経験者とも話すと出るのが、若手が上がって来ないという共通の悩みがあり、遠くから参加している人が居る。役員やり全国の場に出てくれば、全国の普段知り合えない人と知り合える、県の理事になると普段の農作業では得られない組織を運営する力が付くといった、普段農作業しているだけでは得られない物を得るために是非出て来いと一度飲みに来て話をするだけでも変わるし、話すだけで繋がりもできるしコラボレーションも生まれるので、そういった事を若手に話して行こうとしています。

埼玉 斉藤

埼玉県は1年任期でクラブ数も多く、県連の活動というプロジェクト発表会とリーダー研修会くらいしかないので、それに向かってどうしたら良いのかを考えたときに、自分が前年度に全協理事していたことも影響しますが、会長として自分に出来ることは4Hクラブに協賛できる企業を探すことだと思い、県理事に各資材メーカー、農機具メーカー、配送業者に営業でPRしてもらい、協賛でなくてもプロジェクト発表会に参加してもらったりして、異業種とのコラボレーションがそこで生まれれば各クラブ員の農業の発展に役立つのではないかと考えています。

自分は今、クロネコヤマトに4Hクラブの発表会があるので是非来てくださいとお願いしていますし、全協理事の時に知り合った全農さんにもお願いしています。

長野 小澤

宮野会長の熱量をどう伝えているのか知りたいと思います。

石川 宮野

まずは会長がどのような人間なのかを伝える。一番のキーは事務局さんだと思っていて、事務局さん自体が連絡役を行っていて、県の事務局さんから単協の事務局さんに伝わるので、事務局さんとの温度差をなくす為に地区に行ったときは事務局さんと仲良くするようにしていて、事務局さんはクラブ員を世話してくれてるので、その世話をしてくれてる事務局さんが応援したくなるような活動をする。またそれを見ていたクラブ員が真似出来る様な感じにしたい。

事務局さんのローテーションが早くて引継ぎが出来ておらず、クラブ員が事務局を育てていくくらいの県もあり、事務局さんが動いてくれないという悩みの県もあると思いますが、一緒にテンションをあげて行かないと出来ないと思う。

北海道 久末

ブロックの行事や役員の構成の仕方、活動費を知りたい。

島根 西尾

中四国ブロックは全協加盟が岡山県、愛媛県、島根県 3 県で、近々交換大会も受けさせてもらう予定です。中四国独自の会長を立てて、事務局は中四国農政局に受けてもらっています。

最近の取り組みはトランスファーマーズという団体が立ち上がり、それと連携して東日本復興チャリティーというシリーズ戦を何回か行っておりまして、島根県でも 11 月頭に出雲大社で開催しました。事の発端は岡山県で 3 月 20 日前後に開催される復興チャリティーのシリーズと位置づけて行っております。中四国の活動としては一番大きいと思います。

事務局 森安

トランスファーマーズ事務局もやっておりますが、元の話は九州の久木田さんや野田さん達が 3 年前に佐賀県のハッピータウンのところから始めて、次の年は中四国でもやらないかと誘われ、1 度は九州と一緒にやり 2 年目からは中四国として岡山県で開催して、今年は島根県が開催してくれました。この繋がりです。今度のブロックの忘年会に香川から参加があったりで最近ではブロック内が凄く盛り上がっています。

トランスファーマーズは中四国ブロックの有志で活動して、会計は岡山県の通帳で売り上げなどのやり取りをしていたが、いろいろと問題があるのでメンバーは 4H のメンバーですが、別団体を立ち上げました。

議長 宮野

全協非加盟が多いブロックだけど非常に熱量の多くて、他のブロックも参考にするといいかもしれません。

県連内で委員会がある県はありますか？例えば広報部など

佐賀 中島

会長、副会長、事務局長、事業部、組織部、広報部、監査があります。研修会等は事業の担当など、各部がそれぞれ担当を持ちます。

議長 宮野

昨日の話にもありましたが、役割を与えられるとやれるという方も多いが、自分たちが何をしたらいいのかわからない中でしっかり委員会で事業をまわしていくのは凄くいいこ

とだと思えます。

北海道 久末

まだ、ブロックという組織を理解できていない状態で、県連はそれぞれあると思えます。

議長 宮野

北海道は地区連の会長が道連に所属してそのままブロックに上がるという特殊ですが、道連とブロックの線引きはありますか？

北海道 久末

線引きも無ければ、ブロックとしての活動がないです。

他には交換大会に向けた話が聞きたいです。お金の積み立て等。

青森 長峰

毎年東北大会は各県から負担金の積み立てをしています。後は協賛金と参加費で大会資金を賄っています。今回は交換大会だった為全協からも協賛金を頂いていて、震災があった年に九州と中四国から義援金を頂いていてそれをブロック大会で少しずつ使う話だったので、今回の交換大会にも一部使っています。次の東北ブロック大会は福島県なので、その時にも義援金の一部を使わせていただきます。

議長 宮野

各県の状況は各会長が一番把握しているはずなので、小澤さんからもありましたが、熱の伝え方は会長がしっかりやって行くのが会長職だと思っているので、他県のいい取り組みに関しても聞いたり、会議後でも話は出来ますし、全協さんでも各県の取り組みに関してマニュアル化してマッチングできるような感じにしてあると、みなさんにとって良い情報源になるのかと思えます。

二日目 審議終了